

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和4年 12月 1日

事業所名 児童デイサービス すだっち

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	5	・土曜日や長期休暇の活動ではグループ別で1階と2階と分けて使用している。 ・人数の多い時は、庭や2階の活動を児童の様子をみながら活動している。	・グループ活動の際には事前に職員配置しているが、突発的な際には職員配置の声掛けを行う注意が必要。 ・児童が気持ちを落ち着かせる部屋、場所が1階にも必要な為、現在検討中。
	2 職員の配置数は適切である	11	1	・国のガイドライン以上の職員配置を努めている。	・担当児童だけでなく、児童の1グループ毎に必ず職員が付き添い、責任をもって目を向けている。
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	3	・外のスロープは車いす対応可。 ・玄関横の段差を軽減するため、踏み石などを活用。	・階段に手すりはあるが、児童によっては付き添い等の配慮が必要。
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	12	0	・毎日、朝礼と終礼で振り返りを行い、月一回の全体会議(すだっちとイーストと合同)で全職員が参画している。ミーティングノートも活用している。	
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	12	0	・調査結果を職員全員で共有し、日々の改善を努めている。	
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	12	0	・本部のワークスコープ山口のホームページに掲載。	
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	10		・第三者による外部評価委員会を検討中。
8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	12	0	・年間研修計画を作成し、虐待防止・感染予防対策・療育等の研修を始め、資質向上の為の研修を定期的に行っている。	・個々の研修はコロナ禍により、オンライン研修に参加。 ・研修報告を全体で周知しているが、実践に活かす為に必要な勉強	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	・事業所内会議を実施し共有している。 ・日々の活動の中で出された意見を記録している。	
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	8	4	・標準化アセスメントツール(発達検査等)の活用は出来ていないが、アセスメントシートや、日々のミーティングで、適応行動の状況を把握している。	・標準化されたアセスメントツールの総合的な活用が課題。
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	12	0	・担当職員を中心に全職員で話し合い、分担し考えている。	
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	12	0	・担当職員を中心に皆で意見を出し合いながら実行している。また児童の希望も組み入れながら立案している。	・児童から案を出してもらっているが、自分たちでプログラム化できるような支援を検討中。
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	12	0	・職員間で話し合いをして決定している。	・職員だけでなく、児童発信の意見も吸い上げて、課題設定に活かしていく。
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	12	0	・担当で適宜、判断している。	・集団活動になじめない児童は、個別プログラムを検討。
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	12	0	・朝夕のミーティング時に打ち合わせをしている。 ・平日の昼からも昨日の振り返りを行い、児童の状況を午後出勤の職員と情報共有している。	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	12	0	・振り返りにて確認。さらに重要なことはミーティングノートを活用。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	12	0	・日誌、ケース記録の記入を徹底している。	
18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	12	0	・保護者との個人面談や相談支援専門員の意見を取り入れ、情報を共有している。 ・6か月に1度、全職員で評価し、支援の見直しや検討をしている。		
19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ支援を行っている	10	2	・自立支援、創作活動、余暇などの支援を集団・個別にて行っている。	・コロナ禍の為地域交流への参加が難しい状態ではあるが、参加できるような機会を検討していった	

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	12	0	・児発管、担当者が参画している。	・今後、担当職員も積極的に参画していきたい。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	12	0	・保護者からの連絡のもと、学校へ確認の連絡を取っている。 ・下校時に児童の体調や様子を確認している。 ・支援方法や対応についても、情報共有に努めている。	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	7	5		・現時点での対象者はいないが、必要があれば共有していく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	8	4	・個別にはないが、保護者や相談員により情報をファイルにまとめ、共有している。(てんかん発作対処法など)	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	9	3	・個別にはないが、保護者や相談員により情報を共有している。	・相手の事業所からの連絡はないため、こちら側から働きかける等の改善をしていきたい。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	12	0	・個別支援を専門機関と連携し研修を行なっている。	・専門機関と今後も連携し、現在の該当児童以外にも対象児童となりうる事例をもとに、連携、助言、研修を継続していく。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	2	10		・コロナ禍のため、できていない。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	4	8		・オンラインを活かした情報交換の場があれば参加したい。
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	12	0	・送迎時や連絡帳等で情報を共有している。	・SNSを活用している。
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	5	7	・ペアレントトレーニングまでは行えていないが、子育ての支援や児童の日常の出来事など、関わり方のアドバイスなどは、都度、させていただいている。		
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	12	0	・児童発達支援管理責任者が契約の際に行っている。	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	12	0	・面談や連絡帳を有効に活用している。	・児童についての保護者からの相談事は、全職員で話し合い職員間の共通理解が必要。
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	5	7		・コロナ禍のためできていない。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	12	0		・個別の意見をもとに体制を整備し、対応していきたい。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	12	0	・毎月のすだっち通信配布。追加での行事は個別に通信を配布やSNSを活用し発信している。	
	35	個人情報に十分注意している	12	0	・情報ファイルは鍵付きの保管庫にて管理している。	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	0	・児童にはわかりやすい声掛けや情報の可視化を心がけ、保護者には送迎や連絡帳での日々の様子を伝えている。	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	6	6	・訓練でバトカーが来る際には近隣住民への伝達や、お米を収穫した際には近隣へ児童とともに、配布、挨拶を行っている。	

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員には、入社時に研修をしている。 ・訓練の実施報告をすだっち通信やSNSで報告している。 	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・年に2回の火災による避難訓練と地震による避難訓練、防犯に関する訓練を消防署、警察署の協力のもと実施している。 	
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に虐待防止委員会、身体拘束適正化委員会を開催し、事例検討や検証を行っている。 	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・身体的拘束等に関する同意書を全保護者から提出して頂いている。 ・保護帽は保護者の同意を得た上で着用している児童がいる。 	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・医師の指示書はないが、保護者からの情報をもとに適切に対応している。 	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	0	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書を作って全員に周知している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的に事業所内会議でヒヤリハットの事例検討会議を行っている。